

怖くない頭痛と怖い頭痛

身近な症状のため、「頭痛くらい」と軽く考えがちですが、ひどい場合には生活に支障をきたしたり、命にかかわる病気が隠れていることもあります。その原因も様々で、それによって予防方法や対処法が大きく異なるため、間違えた方法をとればかえって痛みが悪化するなどにもなりかねません。今回は主な頭痛の種類と特に気を付けたい「危険な頭痛」についてご紹介します。



頭痛の約 9 割は「怖くない頭痛」

以下は代表的な頭痛です。

片頭痛



血管の拡張や神経の刺激によって起こる、ズキズキと脈打つような慢性的な頭痛です。

緊張型頭痛



身体的・精神的ストレスで首・肩の筋肉が凝り、頭が締め付けられるように痛む最も一般的な頭痛です。

群発頭痛



片側の目の奥に焼け付くような激しい痛みが、1～2 ヶ月の「群発期」に集中して毎日発生する頭痛です。



すぐに受診！「怖い頭痛」とは...

- 急激かつ激しい痛み：「雷に撃たれたような」「バットで殴られたような」突発的な激痛。(くも膜下出血の可能性)
- 今までに経験したことがない痛み：過去にないほど強い、または痛みの質が違う。
- 進行性：日に日に頭痛の回数や程度が増していく。
- 神経症状を伴う：手足の麻痺・しびれ、めまい、言葉が出にくい、物が二重に見える、意識がぼんやりする。
- 発熱や嘔吐：高熱や急な吐き気を伴う(髄膜炎などの可能性)。
- 危険な特徴：50 歳を過ぎて初めての頭痛、頭をぶつけた後の頭痛、がんの治療歴がある。



頭痛による医療機関への受診率は低い！

とある調査によると「受診したことがない」方が約 7 割で、薬についてもほとんどの方が市販薬で対処しているということが分かりました。

「怖くない頭痛」との判別だけでなく、症状にあった治療薬や予防薬の処方など、適切な診断と治療によって症状の改善も見込めます。

辛い頭痛が続いていたり、悪化する場合などは一度医療機関にご相談ください。